

令和6年度大牟田市総合教育会議 会議録

◆ 日 時 令和6年10月7日(月) 16時00分～17時15分

◆ 場 所 大牟田市役所北別館4階 第2会議室

◆ 出席者

関市長、谷本教育長、嶋田委員、山本委員、東委員、木場委員

教育施策関係部署

(企画総務部) 森部長、木村副部長

(市民協働部) 大倉野部長、高口副部長

(教育委員会事務局) 平河教育監、坂井事務局長、久富事務局次長、学校再編推進室 中野室長、教育みらい創造室 松葉室長、宮崎指導主事、学校教育課 田上課長、指導室 杉野室長、学務課 石丸課長、学務課 今福学校再編施設整備担当課長、学務課 木下給食担当課長、人権・同和教育課 大淵副課長

(事務局：企画総務部総合政策課) 新田課長、小山主査、目野

・傍聴者 1名

◆ 議 事

[議題]

1.大牟田市版 COCOLO プランについて

事務局より説明後、協議。

委員

「誰一人取り残さない学びの保障」を目指す COCOLO プランに大いに期待しており、大牟田市版 COCOLO プランとして進められているこの取組が、市の実情に合わせて形成されていることに、強い覚悟を感じている。

説明にあったように、子供たちが「学びたい」と思った時に学べる環境が整うことで、子供たちは自分の居場所を感じることができる。小さな SOS を見逃さない「チーム学校」づくりによって、子供たちは少しずつ心を開き、安心感を持つことができる。さらに、当事者だけでなく保護者にも寄り添うことで、孤立を避けることができ、学校だけでなく地域の支援が広がることで、居場所も見守りも広がると思う。そして、教育委員会がハブとなり、関係部局と連携することで、オール大牟田チームとして子供たちを見守るという点が一番素晴らしいと感じている。

そのような中、昨年お願いしていた、学校内外を含めた学びの場や居場所の確保、専任の指導員が子供たちに寄り添ってくれる体制を整えていただいたことに対して、感謝申し上げます。

最後に、区内のハートフルルームにおける学習指導員の配置については非常にありがたく思っているが、もし可能であれば、指導員の勤務時間をもう少し延長していただくと、子供たちと向き合う時間が増え、さらに効果的な支援ができると考える。

市長

1 学期が終わり、2 学期が少し進んだところだが、中 1 ギャップに関して大きな成果が上がっていることは、この取組の実績だと思う。今後も継続するとともに、どうということが不登校減少に繋がっているのかということ現場を中心に分析を進めていただきたいと思います。

委員からの要望の件については、9 月に補正予算を組み、時間数を増やすようにしている。

今後も教育長をはじめ、教育委員会の意見を伺いながら、検討を進めてまいります。

[意見交換]

委員

夜間中学ほしぞら分校は 4 月に開校し、12 名が入学した。現在 14 名に増加している。開校に際して、市長から多大なご支援を賜り、感謝申し上げます。

また、昨年度の会議でお願いしていた、小中一貫教育に関わる地域学校協働活動推進委員の歴木中や橋中への前倒しでの配置や、義務教育学校設置に向けた支援、さらに不登校児童生徒の学びの場や居場所となる「ハートフルルーム」の設置、スクールカウンセラーの配置などに関して、予算面で配慮いただき感謝申し上げます。

また、子供たちが文化や芸術接する体験活動について、4 月にはおおむたアリーナの落成をはじめ、プロのバレーボール選手や卓球選手が訪れる大会を開催していただいている。日本や世界トップレベルの選手の試合を目の前にして、驚きと感動、そして多くのことを学ぶことができたと思う。感謝申し上げます。

教育委員が学校訪問や委員会で見聞きした内容をお話させていただく。まず、学力向上について、昨年お願いしていたタブレットドリルを導入いただき、感謝する。先日、吉野小学校を訪問した際に学力調査結果を拝見した。昨年 5 年生だった児童達の 6 年生になった現在の国語と算数のテスト結果の比較で、CD 層の割合が減少し、AB 層が増加していることが確認でき、タブレットドリルの効果が表れていると感じた。

一方、本市の児童生徒の学力はまだ課題がある。この学力向上に向けたツールとして、学力の状況を追跡して分析する学力調査の導入も支援していただき感謝申し上げます。

学力テストについて、小学生は年に 1 回国語・算数、中学生は 5 教科を年に 2 回テストし比較するものだが、この取組は小中一貫教育にも繋がると思う。1 人の児童生徒を小学校 3 年生から中学校 3 年生まで追いかけていき、個人のカルテを作成し・追跡し、タブレットドリルで個々に合った問題が出題されるということで、学力向上に大いに役立つと確信している。引き続き支援をお願い申し上げます。

一方、ICT 技術の進展が非常に早く、デジタル教科書の導入が進んでいるが、その対応には高度な技術と膨大な作業量が要求され、学校の先生方だけでは対応が難しい状況だと聞いている。文部科学省は ICT 支援員を 4 校に 1 人の配置基準としている一方で、本市では 28 校に 1 人の配置となっている。

プログラミング教育の充実と合わせて、ICT 支援員の増員についてご検討いただきたい。

最後に、まちづくり総合プランの中で、「特に喫緊の課題である人口減少に対応していくためには、“若い世代に如何に大牟田市に住んでもらうか”といった視点で若者が安心して働ける雇用の場を増やし、子育てや教育環境を充実させていく必要がある。」との記載がある。これには大いに賛成であり、大牟田に住みたいと思ってもらえるように教育環境の充実、知・徳・体が揃った子供達を輩出できるよう支援をお願いする。

市長

タブレットドリルは一人ひとりの生徒がつまづいている部分に戻り、そこから再スタートできるという機能があることに私も大変感心している。一斉事業の中では、できるだけ一人ひとりの子供をフォローしようとしても、どうしても全員に対して説明をする場面が多かったのではないかと思う。そのため、先生方が行う説明に加えて、個々の理解状況を把握し、つまづき部分から 1 つずつ理解していくという点で、タブレットドリルは有効だと思うので、ぜひ現場で活用いただきたいと思う。

また、ICT 支援員の増員については、趣旨をよく理解した。様々な整備を進める中で、予算編成を考えていきたいと思う。

引き続き、人口減少対策として、子育て支援や教育環境の充実が非常に重要であると感じている。できる限り教育長の意見を聞きながら進めていきたいと思う。

委員

小中一貫教育制度について、令和 5 年度に本格導入され、宮原中校区だけでなく、試行的に導入された松原中校区においても、中 1 ギャップの解消や不登校児童生徒の減少に成果が表れていることを嬉しく思う。これも準備段階を大切に考え、地域学校協働活動推進員やスクールソーシャルワーカーの早期配置などに配慮いただいたおかげだと思う。学校、地域、家庭の連携がしっかりと深まってきており感謝する。

昨年度の総合教育会議でも触れたが、松原中学校区への義務教育学校設置に向けて、大牟田市立学校適正規模適正配置検討委員会からの答申を受け、今年度は教育委員会で条件整備や基本構想の策定に取り組んでいると報告を受けている。着々と準備が進んでおり、教育委員一同、小中一貫教育の先進的な研究校としての義務教育学校についてもっとしっかり学び、議論を深めていきたいと思う。大牟田に初めてできる義務教育学校であり、本当に楽しみにしている。今後も物心両面での支援をお願いする。

また、夜間中学ほしぞら分校は今年 4 月に開校し、市長にも開校式にご列

席いただいた。入学者代表挨拶の田中さんの言葉の中に「私たちはこの日その時をずっと待っていた。わが町大牟田で長年待ち望んでいたことが実現できた。」という言葉があった。大牟田市の教育委員会は「誰一人取り残さない学び直しの機会」の保障に向け、細かな配慮をしながら長年準備をしてきた。今後も多くの生徒に「入学してよかった」と感じてもらえるよう、ほしぞら分校の運営に継続的な支援と理解、見守り、応援をお願いしたい。

また、ほしぞら分校は待ったなしの課題である不登校対策の1つとして、国から昼間の中学校で不登校となっている学齢生徒を受け入れ可能な「学びの多様化学校」の指定を受け、現在その準備が進んでおり、今後喜んで入学する生徒が増えると思う。

大牟田市教育委員会は、大牟田市版 COCOLO プランの理念を胸に、大牟田の子供たち一人ひとりにしっかり向き合っていきたいと思う。今後とも何かと支援をお願いすることが多いと思うが、大牟田のこれからを担う子供たちを大切に育むため、よろしく願います。

市長

ご指摘の通り、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーといった専門家と、現場の先生方が連携して子供たちをフォローすることは非常に重要であると思う。引き続き、そのような連携体制が充実するよう、支援を続けていきたいと思う。

夜間中学ほしぞら分校について、委員が述べられたように、私自身も入学式で大変感動した。その後現場を訪問した際、ほしぞら分校の先生方が一人ひとりに寄り添い、学力・学びの保障を行っている姿に深く感銘を受けた。以前、ある先生が「一人の子供を大事にしない教育は駄目だ」とおっしゃっていたことを思い出し、やはり一人ひとりを大切にすることが教育の基本であると改めて感じた。このような取組がすべての子供たちに行えるような教育を目指して、教育委員会と連携していきたいと思う。

委員

特別支援教育支援員の配置について、今年度も多くの支援をいただき、感謝する。支援を必要とする児童生徒がどんどん増加している傾向にある。支援を必要とする児童生徒の情緒的な安定や安全面の確保が必要な中、現場の先生方も大変だと思う。支援を要する児童が教室から飛び出し、それにつられて出て行く児童もいる。担任の先生や支援員が追いかけて教室から出て行くことも多々あり、教室に残された学級全体の落ち着きや、児童の安全にも大きな影響を与えるものだと思う。

このような中、各学校の現場からは、支援が必要な児童生徒は、一人ひとり支援内容や必要な支援の度合いが異なり、支援には体力面も含め厳しい環境下にあると聞いている。教育委員会でも支援員の研究、研修を丁寧に指導していると聞いている。児童生徒、教職員が安心安全な学校生活を送れるように、引き続き人材確保、増員配置が可能となるよう処遇改善の検討も含め、これからも支援をお願いする。

もう1点、教職員の働き方改革については、教職員のなり手不足を解消し、次の時代を担う教職員を確保するためにも、早急に取り組まなければならない大きな課題である。本市では、教職員の働き甲斐かつ働き方改革として、長時間勤務の改善に向けた教育課程や行事等の整理、効率化、部活動指導員の配置などが積極的に進められている。家庭を持つ教職員にとって、働きやすい環境作りが重要だと思いつつも、教育委員会や関係者が長時間勤務の改善に取り組んでいることに感謝している。

教職員が児童生徒としっかり向き合い、指導や授業準備等に集中できる環境づくりに必要不可欠な存在となる学校支援スタッフや学習指導員の配置について、学校現場の実情を踏まえた役割が担えるよう、また、先生方が働きやすい環境が整うよう、引き続き予算確保等の支援をお願いする。

市長

特別支援教育は非常に重要であり、特に発達障害については、以前は社会全体で十分な認識がなかった。しかし、現在では発達障害に対する理解が進み、どのような形で子供たちをフォローしていくかという考え方もだいぶ確立されてきていると感じている。ただ、ご指摘いただいたように、一人ひとりの支援内容が異なるため、支援の仕方もそれぞれの子供に合わせたものが必要となる。専門スタッフを増やしていくことは欠かせないと思う。

一方で、学校、児童生徒、そして教職員を含め、魅力ある楽しい学校を作っていくことも、安心して学校で学ぶ上で重要であると思う。各現場でそのような努力が進められていると理解している。今後も、安心して学べる学校づくりを進めるため、引き続きお話を伺いながら取り組んでいきたいと考えている。

また、働き方改革については、教育委員会が一昨年に水曜日を「子供と向き合う時間」にしようということで、様々な行事や教育課程の整理を行い、新しい学習時間割を作成されたことに感激している。教職員の働き方改革を行いつつ、子供たちと向き合う時間を確保するために、働きやすい環境に変えていこうという視点で取り組まれたことがまさに大牟田版であり、本当に素晴らしいと感じている。こうした教育委員会や現場の努力に、応えられるよう尽力していきたいと思う。

委員

中学校の部活動支援について、昨年お願いした2つの項目のうち1つ目の部活動指導員の研修会参加費用については、今年度から支援をいただき、感謝を申し上げる。それぞれの部活動で筑後地区大会などに参加する際のバスの借り上げ費用に関して、近隣自治体では市からの補助金等で賄っているようだが、本市では市から費用が出ないため、PTA会費や保護者の負担で対応している場合がある。また、保護者や引率者が運転している場合もあり、万が一事故が発生した際に責任問題や補償問題が発生する恐れがある。その場合、デリケートで大きな問題に発展する可能性があると思われるため、これを防ぐために市からの支援をお願いしたい。また、昨年度のPTA連合会からの

陳情でも中学校の部活動に関する支援を求める声があったと思うので、そちらも含めて検討いただきたい。

もう1点、中学校の吹奏楽部の楽器について、以前から楽器がかなり古くなっているという話を伺っていた。どの程度古くなっているのか、またどのような状態なのかも気になっていたため、先日状態を確認したところ、塗装がはげたり、へこんだり、テープで補修したりといった状態が見受けられ、耐用年数を超えている楽器も多く驚いた。何度も修理を重ね、なんとか使い続けている状況ではあるが、どうにか改善できないかなと感じている。楽器は非常に高価なものであり、現場の学校の予算だけでは対応が難しい状況であるため、ぜひ子供たちに新しい楽器を購入していただきたい。

教育環境の充実について、学校施設全体が老朽化しており、経年劣化に対する補修などは適宜行っていただいている。中学校の再編事業や施設の長寿命化に向けた計画的な改修に取り組んでいただいております、非常に感謝している。

空調設備について、特別支援教室や特別支援学校の体育館に空調を設置いただいた。6月の終わるか7月に特別支援学校を訪問する機会があり、その際に体育館の様子を見てきたが、非常に快適な環境であることを実感した。特別支援学校の生徒は、体調を崩しやすかったり、心身に問題を抱えている方も多いため、整備により教育活動が円滑に行われているという話も聞いている。空調設備に取り組んでいただき嬉しく思うとともに、お礼を申し上げます。

給食の調理室の空調について一つお願いがある。ご存じの通り、給食調理室では火を使い、重たいものを運ぶなど、かなり重労働が求められる。現在の空調はスポット式のクーラーしかなく、冷気が当たる部分は良いが、それ以外の場所については冷やす力がなく、部屋全体が暑い。また、スポット式クーラーが冷気を出す一方で、反対側では排気熱が出るため、逆に部屋全体の温度が上昇してしまうという問題もある。調理従事者の健康を守るためにも、できるだけ対応していただければと思う。昨年度のPTA 联合会からも、給食調理室の空調設備設置に関する要望があったと思うため、重ねてご検討いただきたい。

また、子供たちが安全・安心に過ごせるよう、引き続きトイレの洋式化や校舎の壁面や床面、雨漏りの補修など学校施設の整備や学校敷地内の樹木の伐採や剪定など、教育環境の整備にもご支援をお願いしたい。特に、樹木の伐採に関しては、毎年多くの学校から要望が寄せられている案件である。最近、強風により枝が折れたり、根腐れを起こした樹木が倒れて歩行者に当たり怪我をする事故がニュースで報じられている。これはいつ学校で起こってもおかしくないことだと思う。先日、吉野小学校を訪問した際、校庭に大きなソテツの木があり、強風でその枝がよく落ちるという話を聞いた。ソテツ

の葉先は非常に尖っており、けがをする危険性が高い。こうした安全面を考慮し、樹木の伐採や剪定、教育環境の整備に予算を割いていただければと思う。予算が厳しいことは理解しているが、その中でぜひともお願いしたいと思い、今日この場でお願いをさせていただいた。

市長 部活動については、子供たちが心身ともに健やかに成長していく上で非常に重要なものだと考えている。予算の中でどのように対応できるか検討を進めていきたい。

施設に関する話題も同様で、9月議会でも特に空調について議論がなされた。これまで普通教室の空調整備から始め、現在では特別教室にも広げている。特別支援学校については、子供たちの体調を考慮し、いち早く体育館に空調を整備した。体育館の空調となると、それなりの費用と維持管理費がかかるため、その点も考慮しながら今後どのように進めていくかを検討する必要がある。

また、安全・安心という観点から、樹木をはじめとした教育環境の整備、学校は安全でなければならないことは間違いと思う。その中でどのように工夫して優先順位をつけ、危険なものから除去していくかを考えなければならないと考えている。

予算に関しては、新しい政権が地方創生交付金を倍増するという話がある。これまで、トイレの洋式化にはコロナ関連の交付金を活用してきた。今後どのような内容になるか未定だが、国のシステムを活用しながら、学校の部活動や教育環境、施設整備を進めていくための検討を行っていきたいと考えている。

教育長 教育関係については、教育委員の先生方が毎月勉強していただいているため、ほとんど伝えたいことはすでにお話しいただいている。

最近特に感じていることは、市の財政が厳しい中で、ふるさと納税や企業版ふるさと納税などを研究して、「稼げる教育委員会」にならないといけないと思っている。大牟田市で取り組んでいる様々な教育事業、例えば ESD 教育事業や小中一貫教育などに賛同する企業と連携し、しっかりと声を届けていきたいと考えており、その実現に向けて少しづつ動いている。ぜひ市長と一緒に財源の確保に努めたいと思っている。

市長 大変ありがたい発言をいただいた。教育というのは人と人との関係が非常に重要であり、先生たちが安心して働き、切磋琢磨しながら子供たちとしっかり向き合えるようなサポートをしていきたいと思っている。教育委員会や現場の先生方にお任せできることはお任せしつつ、予算についてはしっかりと検討していきたいと思う。

委員 この大牟田市版 COCOLO プランは、国の COCOLO プランを大牟田の実情に合わせてカスタマイズしていただき、非常に素晴らしいプランだと感じており、教育委員会の勉強会でも、その内容に感動した。

ただ、先ほど話があったように、このプランには多くの部局の協力が必要となる部分もあると思う。今後、市長にはぜひ先導していただき、このCOCOLOプランがどんどん充実していくようご支援をお願いしたい。

市長 COCOLOプランがここまで大牟田市の実情に即したものになっているのは教育委員会の事務局スタッフや、校長先生を始めとした教職員の皆さんの声がしっかり反映された結果だと思う。実績が着実に上がりつつあるので、私としても今後しっかり支援させていただきたいと考えている。

以上（17:15）終了